

内部評価

教員により実施した
校内の評価

水泳指導について

課題

- ・感染症対策や熱中症対策で、実施日数を確保することが難しい。
- ・水質維持に労力と費用がかかる。

対策

- ・開始時期を早め、水泳授業を1学期で終了する。夏季水泳教室実施後、水泳指導を終了する。

期待する効果

- ・早めに始めることで、熱中症になりやすい期間を避けることができる。
- ・プールを使用しない期間がなくなり、労力と費用を削減できる。

ペーパーレス化について

課題

- ・環境への配慮や印刷にかかる時間の削減を図るため、配布文書のデジタル化をすすめたい。
- ・パソコンの割り当てがない職員がいるため、データのみの周知が難しい。

対策

- ・パソコンの割り当てがない職員への周知は、紙で確実に行う。
- ・令和4年度にサーバー内のフォルダ整理をすすめ、全職員が必要なデータを活用できるように準備する。

期待する効果

- ・紙の使用量を削減できる。
- ・事務作業の効率化が図れる。

中休みの分散実施について

課題

- ・高学年と低学年の交流ができない。
- ・分散実施の中休みに要する時間は、一斉実施の中休みに要する時間より多くなるため、朝の時間にゆとりがなくなっている。

対策

- ・新型コロナウイルス感染症の現状から、来年度については、分散実施を継続する。
- ・朝の時間にゆとりをもたせるため、令和5年度は、一斉実施にもどす。(社会情勢に合わせて検討)

期待する効果

- ・朝の時間にゆとりができることで、朝学習、朝読書、児童集会などを行うことができ、落ち着いて一日がスタートできる。

1人1台専用タブレット端末について

課題

- ・低学年では、教科内でパソコン操作の基礎を指導する時間を確保することが難しい。

対策

- ・パソコン操作の基礎を指導する時間を教科外で設定する。

期待する効果

- ・低学年から基礎的な操作を身に付けることで、上学年での学習におけるタブレット端末の活用を円滑にすすめることができる。

体力向上プロジェクトについて

課題

- ・「杉並区特定の課題に対する調査」の結果、児童の自己受容感が低いことが分かっている。

対策

- ・体育で、できる体験を増やし、自信につなげる。

期待する効果

- ・「できる」を実感させ、自己受容感を高めることができる。

課題：自己受容感を高め、自立的・主体的な学習者を育てる。

学校行事で児童が活躍できる場を増やす

主な意見

- ・自己受容感が低いのであれば、学校行事を活用して、活躍できる場を増やすことがよい。
- ・大人は分散実施の運動会は寂しいと思うが、子どもたちはとても楽しみにしていた。できることでやっていくことが大切である。
- ・伝統文化を子供に伝えていく必要はあるが、伝統的な技術（もちつき、神輿の組み立て）を引き継いでいく人材が地域にも少なくなっている。地域とPTAの協力・連携が必要である。
- ・実施が難しい行事は、できない理由を子供に説明して、子供にも考えさせ、大人ができる・できないの判断をすればよい。実現したときの嬉しさは、自己受容にもつながるはずである。

1人1台専用タブレット端末の活用を進める（個に応じた指導）

主な意見

- ・文字を書くことが苦手な児童が、文字を入力することで意欲的に参加することができる。
- ・個に応じた指導をアプリで実現できる。個々の児童の理解度に応じて、パソコンが問題を設定してくれる。取り組み方には個人差が出てくるので、先生方がチェックをして、意欲付けをしていくことが大切である。
- ・児童の取組の差を埋めるのが、先生の働きである。担当者任せにせず、学校全体で、組織的に取り組んでほしい。
- ・子供と同様、教員も得意、不得意がある。学年、学級で、お互いを認め合い、力を合わせていく教員が求められる。
- ・小中一貫で、先生方が連携して指導していくことも大切である。小学校でどう教えていたのか、中学校でどうなってくるのか、小中の先生同士の連携が大切である。

地域とのつながりを深める（多様な人との関わり）

主な意見

- ・継続的なつながりにしていくことが、子どもたちの願いでもある。点のつながりを、線のつながりにして行ってほしい。
- ・親同士のコミュニケーションを図ってほしい。
- ・あいさつを徹底指導してほしい。

学校評価委員会は、学校運営協議会委員と現PTA会長により令和4年2月25日に開催されました。保護者や児童による教育調査や上記の学校評価を考慮し、令和4年度の教育課程を作成し、学校運営協議会にて承認されました。